

【家庭教育支援チーム】

(1)活動主体(チーム)について

①チーム名 (呼称)	下妻市訪問型家庭教育支援チーム (呼称:Smile ステーション)
②活動拠点	下妻市教育委員会 学校支援課内
③活動範囲	下妻市立小・中学校 下妻市内(対象:公立・私立 保育園、幼稚園、認定こども園)
④組織体制	9 人
⑤活動開始年度	平成29年度
⑥問合せ先	(部署・氏名等) 下妻市教育委員会 学校支援課 (TEL)0296-44-0746 (E-mail) shido@city.shimotsuma.lg.jp

(2)活動内容について

①活動形態 (複数チェック可能)	<input checked="" type="checkbox"/> 保護者等への学びの場の提供 <input checked="" type="checkbox"/> 保護者等への地域の居場所づくり <input checked="" type="checkbox"/> アウトリーチ型家庭教育支援(※保護者の居場所に出向いて届ける支援) <input checked="" type="checkbox"/> 自宅に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input checked="" type="checkbox"/> 保育所・幼稚園・学校等に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input checked="" type="checkbox"/> その他の保護者に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input type="checkbox"/> その他()
②活動対象 (複数チェック可能)	<input checked="" type="checkbox"/> 乳幼児 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生(低学年) <input checked="" type="checkbox"/> 小学生(中学年) <input checked="" type="checkbox"/> 小学生(高学年) <input checked="" type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以上 <p style="text-align: right;">の子供を持つ保護者に対する活動を実施</p>

③活動内容

【具体的な活動内容】

- ・ 来年度新入学児童となる幼児をもつ保護者、又、就学前に面談を実施していた幼児の保護者が児童の就学後1年間を対象に、家庭訪問などの機会を通して、支援員が保護者と面談を行う。支援員は、傾聴を通して保護者の気持ちに寄り添いながら、必要に応じて保護者に助言を行う。
- ・ 支援対象保護者の決定は、健康福祉部健康づくり課において行われる「5歳児健診」との協力・連携のもと進めていく。
- ・ 家庭訪問や面談等で得た情報は、関係する保育園や幼稚園、小学校へ提供をする。また、必要に応じて関係機関(子育て支援課、児童相談所、警察など)にも情報を提供する。
- ・ 市主催、家庭教育講演会を年間1回実施し、保護者の家庭教育について学ぶ機会を提供する。
- ・ 4月～9月の期間に3回、10月～3月の期間に3回、市内の民営コミュニティスペースかふえまるを活用し、市内にお住まいの未就学児・小中学校に就学されている子育て家庭を対象に”しもつま KOSODATE Cafe”を開催する。子育てに豊富な経験や知識のある下妻市訪問型家庭教育支援員と一緒に、カフェでドリンクを飲みながら気軽に子育てについてお話や相談をする機会を提供する。
- ・ 下妻市も年々、外国にルーツのある児童生徒が増加し、言語や文化、生活様式の違いから孤立する場合や学校生活への適応が難しい場合が多く見られるため、外国籍保護者へ支援を行う。主な支援としては、幼稚園や学校で実施されている担任との保護者面談に同席・通訳し、幼児児童生徒の学校生活や家庭生活の改善を図ることや就学时健康診断、学校説明会へ出向き、就学のために必要な手続きや準備物についての相談を実施する。
- ・ 以上の様に保護者及び保護者を取り巻く関係者(園、保護者同士、健康づくり課などの子育てに関係する市役所内担当課、関係機関など)などの関わりを通して、保護者の「精神的安定」や「よりよい子どもへの関わり」を図り、子どもの健やかな成長へつなげていきたいと考えている。

<p>④活動の成果 (活動実績がある 場合)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者は、支援員との面談を通して、子育てに関する不安や悩みを打ち明け、自己開示をしてきている。面談後は、次回の面談も希望している。面談を重ねるごとに、支援員との人間関係も深まり、保護者の表情も明るくなってきている。また、少しずつではあるが、保護者の幼児への関わり方にも良い変化が見られている。 ・ 面談で得た情報を、関係各園や健康づくり課に提供することにより、関係者は、得た情報を生かした保護者や幼児への関わりができてきている。今までとは違った関わりは、保護者や幼児を取り巻く環境の変化をもたらしてきている。 ・ 小学校就学前の幼児の情報に関しては、入学予定の小学校に情報を提供している。その情報をもとに入学式での対応などに役立てている。 ・ 家庭教育講演会については、家庭教育の学びの場や子育て中の保護者の方との交流などに役立っている。 ・ 本事業の最終的な目標は、「保護者の支援を通して幼児の健やかな成長を図る。」ことである。現在のところ、保護者の支援を通して、幼児の成長にどのような影響を与えているという見取りができていないことが課題である。
<p>⑤活動財源 (複数チェック可能)</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 文部科学省補助事業(事業名:地域における家庭教育支援基盤構築事業)</p> <p><input type="checkbox"/> 文部科学省委託事業(事業名:)</p> <p><input type="checkbox"/> 厚生労働省事業(事業名:)</p> <p><input type="checkbox"/> 地方公共団体単独事業として実施</p> <p><input type="checkbox"/> 特段の予算措置はない(自主的に活動を実施)</p> <p><input type="checkbox"/> その他の支援により活動を実施 ()</p>